

平成28年度 第2回小平市農業振興計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成28年12月20日（火）午後4時から5時30分まで

場所：小平市健康センター 4階 第2、3会議室

2 出席者

(1) 委員

8名（松澤委員、沼田委員欠席）

(2) オブザーバー

滝澤地域振興部長、多摩信用金庫 価値創造部 嗟峨調査役

(3) 事務局

市：板谷産業振興課長、同入澤係長、同鎌田係長、同飯泉、同十河

多摩信用金庫：経営戦略室 中西、価値創造部 二ノ宮

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 横手

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① 小平市の産業分析

資料②-1 基礎調査結果の中間報告

資料②-2 基礎調査結果の概要

資料③ 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書（案）

資料④ 今後の日程等について

4 内容(議事要旨)

(1) 議題

① 小平市の産業分析

事務局から資料①を用いて、小平市の産業分析について説明をした。

② 基礎調査結果の中間報告

事務局から資料②-1、②-2を用いて、基礎調査結果の中間報告を行った。

③ 小平市産業振興基本計画及び小平市農業振興計画策定のための基礎調査報告書(案)

事務局から資料③を用いて、基礎調査報告書（案）について説明をした。

(2) 質疑応答

(委員長) このような委員会は話が決まっておき、話を聞くだけのものもあるが、この委員会はそうではなく、話は決まっていないので、委員の方でこれを検討して欲しいかどうか、

これを生かして欲しいといった意見を出していただきたい。

特に、調査結果まとめにある、農を活かすについて、委員の方から見て、どうしたら農を活かせるか、農業の所得の増加を望んでいるという抽象的な言葉があるが、もうかる農業とはなど、アイデアを出していただきたい。

(委員) 基礎調査結果の中間報告の中で、グラフのnや下の50、100といった数字は何を意味しているのか。

(事務局) グラフのnは農家の回答数である。質問に対して複数の回答可のものや、回答がなく無効になったものもあり、nの数字は前後している。下の数字の50、100などは回答数である。

(委員) 農業意向調査は84%であるが市民意識調査は31.4%となっているが、統計学上、市民調査の31%は実態を表せている%なのか。

(事務局) まず84%は当然大丈夫な数字だとして、市民意識調査のようなランダムにしたものは20%を超えれば良好とされている。

(事務局) 全国的にみて31%はかなり高い数字で小平市民が協力的であったという嬉しい誤算である。

(委員) アンケート結果から、市民の方は農業に触れたいと関心を持っているが、農家の方がそれに応えてない。農業と触れ合う機会を増やして、市民の方のニーズに農家が応えていかないといけない。農家の意識を変えていかないといけないと思う。

(委員長) アンケート調査の結果から市民農園を今後開きたいという農家は少なかった。その結果から、皆さんは農地を自分で守りたいと考えており、農業に対しての意識は高いと感じた。市民ニーズに応える農業は今後農家の意識を変える必要があるのではないかと。

(委員) 農業への理解を深めるため、都市農業では、コミュニケーションが必要であると考えられる。

(委員長) もうかる農業とはどういったものがあるか。

(委員) 単純には単価を上げることだが、小平ファーマーズ・マーケットがオープンして多少スーパーより価格が高くても買ってもらっている。

(委員長) ファーマーズ・マーケットみたいな直売所が各駅にあった方が市民にとってはよいのか。また、農家が大変になるだけなのか。

(委員) あった方がよい。小平農業のPRとして、収穫体験で農業に関心を持ってもらった人を増やした。

(委員) 「有機農業に関心がある」、「手間や費用がかかる」、「省力化の農業に取り組む」とあったが地域の住民を巻き込んでやっていけたらよいのではないかと。自分の家の生ごみを農家へ持っていった場合、農家の方に使ってもらえるのか。

(委員) 私の場合はそういったものも気にしないで使用するが、農家も様々な考えの方がいるため、難しい部分はある。地域住民が掃除で落ち葉を集め、それを堆肥に使用しているところもある。市民との連携が取れ、いい接点を結んでくれる方がいればよいが。

(委員) 政策を絞るのではなく、選択肢を広げられる政策を進めた方がよい。その政策により、生産量を増やし、農協へ納品してくれる農家が増えれば、まだ需要は見込める。ファーマーズ・マーケットみたいな共同直売所は1つ建築したばかりなので、すぐには難しい。

(委員) 43%の方が「後継者がいない。」ということで、今後の対策の大きなテーマである
と考える。なんとか農地を維持していける政策を検討しないといけない。また、農
地が発展できる実行力のある計画を検討しないと農地がなくなってしまう。

(委員長) 後継者がいなくても農地が守られる仕組みを作る必要がある。

(委員) 収入が守られるような農地信託みたいなものがあつた方がよいのではないか。新し
い信託的なものを、農業を維持する突破口にしてほしい。

(委員) 農業を長男が継ぐことは、昔は当たり前のことであつた。農業所得が不十分である
ため、不動産収入で賄っている。民間並みの給与がないと農業を引き継ぐことが難し
い。いかに所得を上げるかが重要である。検討委員会でどういう政策がいいのか検討
する必要がある。

(委員長) ヒアリングに行った農家の方で、後継者がいる方の収入割合は農業と不動産の収入
比は6：4か5：5であつた。予想と反して、農業収入の割合が高かつた。農家経営
もやり方によっては収入を確保できる。

(3) その他

① 今後の日程について

事務局から資料④を用いて、第3回検討委員会は3月中旬頃に開催する方向で日程調整
を進め、決まり次第、各委員に連絡する旨、説明した。

② 第2回小平市農業振興計画検討委員会に対する意見の提出期限について

事務局から、意見の提出について、12月28日(水)までとしたい旨と様式は自由で
提出方法はメール、FAXいずれかで可である旨、説明した。

(委員長) その他意見等はありませんでしょうか。

(委員) 特になし。

(委員長) それでは、第2回検討委員会を終了とする。

以 上